



未来を夢見て Season3

2022/7/7 No. 152

好きなことをやろうと思ったら、その何倍も大変なことをしなければならない

～酪農家 佐藤 正信さんを講師に迎えて～

7月6日（水）、6年生の皆さんが、町内在住の酪農家 佐藤正信さん（本校元PTA会長 ※以下、親しみを込めて「正信さん」）を講師にお招きして、職業や自分たちの将来について学ぶ機会をもちました。正信さんには、本校の3年生が毎年校外学習でお世話になっていて、牛舎の様子やその仕事について見学する機会を作ってもらっていました。そんな本校と関わりが深い正信さんのお話を伺う機会も、代々6年生で引き継がれていましたが、ここ数年はこのコロナ禍で実施することができずにいた企画の1つでした。



さて、実際の講話の内容ですが、前段は正信さんが酪農に関わるようになったきっかけ、そして中段では、映像をもとに牛舎の様子や搾乳の様子と続き、お話は子牛が生まれる瞬間の映像へと進んでいきます。命の誕生に触れる機会が少なくなっている子どもたちには、命の尊さを感じる貴重な機会になったことと思います。

そして正信さんがご自分の仕事に誇りをもち、「だれかの役に立つことの喜び」を支えに、1年間、ほぼ休みなくお仕事を続けている姿に子どもたちも、多いに共感できたものと思いました。



どの学校でも学校で大切にしている文化や伝統が残っていて、目には見えないけれど子どもたちや先生方が大切にしているものを「潜在的なカリキュラム」と呼ばれています。本校での「靴揃え」や「挨拶」がその類いです。また、今回の正信さんの講話や牛舎の校外学習のように、教職員や子どもが変わって、脈々と引き継がれているものは、その学校の「学校文化」だと私は考えています。

そして何より、この活動が脈々と引き継がれている要因に、教材（題材）としての価値はもちろん、学校や地域のことを第一に考えて、協力を惜しまない正信さんのお人柄があってこそと、本日実感しました。標題は正信さんが子どもたちにご自分の職業観を紹介するときにおっしゃっていたことです。正信さんがお話すると、言葉に重みがあって、きっと子どもたちの心に残った言葉になったことと思います。正信さん、今日はありがとうございました。そしてこれからも小野小学校の子どもたちをよろしくお願いします。

（文責：手代木）